

中学校第1学年 保健体育科 学習構想案

日 時 令和6年11月22日(金) 第4校時

場 所 玉名市立玉陵中学校 運動場(体育館)

指導者 教諭 牛島 智博

1 単元構想

単元名	E球技 ゴール型「サッカー」			
単元の目標	<p>(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようになる。ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p>			
単元の評価規準	知識	技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>①球技には、集団対集団 個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて言ったり書き出したりしている。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。</p> <p>③パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。</p> <p>④ボールを持っている相手をマークすることができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>③体力や技能の程度性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見つけ仲間に伝えている。</p>	<p>①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②マナーを守ったり、相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>③作戦などについての話し合いに参加しようとしている。</p>

単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）													
仲間と協力して学習する中で、球技（サッカー）に関する理解を深め、球技の楽しさや喜びを味わい、日常生活でも球技やスポーツに多様な関わり方をする生徒													
単元を通じた学習課題				本単元で働かせる見方・考え方									
ボール操作と空間に走り込むなどの動きを仲間と高めながらサッカーを楽しもう。				サッカーの楽しさや喜びを味わうとともに、基本的な動きを身に付け、ポイントや仲間の出来映えを見る、仲間に助言をして支え、サッカーの特性や名称、ポイント等を知るといった多様な関わり方と関連付けること。									
指導計画と評価計画（12時間取扱い 本時6 / 12）													
時	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	
学 習 の 流 れ	0	健康観察 準備運動											
	10	○オリエンテーション ・学習の流れ確認 ・場作り、準備物等の確認 ・安全面の確認 ・スキルアップトレーニングの方法等の確認 ・単元を通じた学習課題の確認 ・ボール慣れ	○ボールを持っているときの動きを高める。 (基本的な技能の習得)		○得点を狙ってゴール前の空いている場所に走り込む動きを高める。		○ボールを持っている相手をマークする動きを高める。		○仲間と共にゲームを楽しむ ・最善を尽くす ・フェアなプレイ ・違いを認める				
	20		2：インサイドキック・トラップ・パス		5：空間を使う2対1		8： ○3対2の簡易ゲーム ○3対3のゲーム		○まとめのゲーム ・総当たりのリーグ戦及び順位決定戦				
	30		3：ボールキープドリブル・ボールキープゲーム・3対1		6：簡易ゲーム 4対2の3ゴールゲーム		9：4対4のゲーム						
	40		4：シュート いろいろなシュート・シュートゲーム		7：簡易ゲーム4対2の1ゴールゲーム								
50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認・片づけ												
評 価 機 会		1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12
	知	①	②										総 括 的 な 評 価
	技			②	①	③			④				
	思						②	①		③			
態	(②)	①						(③)		②	③		
【評価方法】 知識（学習カード・観察） 技能（観察） 思考・判断・表現（学習カード・観察） 主体的に学習に取り組む態度（観察）													

2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
中学校学習指導要領 体育分野 第1学年及び第2学年 E球技 ゴール型「サッカー」 (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事などや、健康・安全に気を配ること。				
運動の価値				
球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、ゴール型は個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。第1学年及び第2学年ではボール操作と空間に走り込むなどの動きを身に付けることをねらいとした学習を受けて、第3学年では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きを身に付けることを学習のねらいとしている。 本単元では、ドリブルやパス、トラップ及びシュートなどの基本技能の習得に加え、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防のゲームが展開できるようにする。				
本単元における系統				
<pre> graph TD A[小学校第5学年及び6学年 E ボール運動 ゴール型] --> B[中学校第1学年 E 球技 ゴール型 サッカー] B --> C[中学校第3学年 E 球技 ゴール型 サッカー] B --- D[中学校第2学年 E ゴール型 バスケットボール] </pre>				
生徒の実態 (単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身につけておくべき基礎・基本の定着状況 (男子10名、女子10名、計20名、2名欠席)				
調査内容	十分	やや	あまり	全く
① ボールを止めることができる。(インサイド等で)	6	9	3	0
② 思った方向にドリブルができる。	3	7	7	1
③ 2人組で、インサイドキックで狙ったところにパスが出せる。	5	4	8	1
④ 狙ったところにシュートができる。	5	3	9	1

■本単元の学習に関する意識の状況

調査内容	とても	まあまあ	あまり	ない
① 保健体育の授業で、意欲的に学習に取り組もうとしているか。	1 1	6	1	0
② 課題を解決するために仲間と協力して考えながら取り組んでいるか。	6	1 1	1	0
③ 考えたことを話合いで仲間に伝えたり、アドバイスしたりしているか。	7	7	4	0
④ サッカーをするのが好きか？	4	6	6	2
⑤ サッカーをしていて、楽しさ（喜び）を感じるのはどんなときか。	シュートを決めたとき 1 3 パスがつながったとき 2 ボールを止めたとき 1 協力したとき 2 勝ったとき 2 ドリブルしているとき 3 ボールを追いかけているとき 1			

■考察

技能の状況に関しては、サッカー経験がある生徒が3名在籍している。男女とも体育の授業に意欲的に取り組もうとしている生徒が多いが、やや女子生徒に元気が欠ける面が見られる。また、サッカーに関しては約半数ずつで「好き」、「嫌い」が分かれており、苦手と感じている生徒に意欲を高めさせるような活動を行いたい。また、全体的に技能が高いとは言えないため、基本的な技能であるパスやドリブルなどのボールを持っているときの動きを高める時間を十分に確保することが必要である。

学びの状況を見ると、主体的・対話的で深い学びの視点から、課題を解決するために仲間と協力して考えながら取り組んでいる。また、考えたことを学び合い活動で仲間に伝えたり、アドバイスをしたりしていると答えた生徒が多い。しかし、特に女子の中にサッカーを苦手と感じている生徒が多いため、段階的な場の設定やチームで協力して課題解決を行っていく場面、グルーピング及び単元計画の工夫が必要である。

3 指導にあたっての留意点

- 玉名荒尾研究主題「主体的・対話的で深い学びを引き出す保健体育学習の創造—運動の楽しさや喜びを味わえる多様な学び方の工夫—」から、学び合いを工夫することで、多様な視点や考え方に触れ、学ぶ意欲につながり、主体的な学びを引き出すことができるようにする。
- 単元終了時の生徒の姿や単元を通じた学習課題を共有して学習を進めることで、生徒の主体的な学習につなげる。
- 授業の途中や振り返りの場面で、課題解決につながるような動きをしたチームの動画や課題解決の参考となる動き方の例を紹介する時間を設けるようにする。（研究の視点1：ツール）
- 授業のねらいや流れ、技能のポイント、声かけの例を示すなど分かりやすい板書をする。（研究の視点1：ツール）
- 授業の途中や振り返りの時間に「玉名荒尾保健体育の学び合いのやくそく」を活用し、充実した学び合い活動ができるようにする。（研究の視点1：ツール）
- 2対1，3対1，4対2等の数的有利な場面を設定した課題の練習を行うことにより、空間に走りこむ動きを高められるようにする。（研究の視点2：場）
- 毎時間、スキルアップのための練習時間を設けることで、ボール操作の基礎的技能の習熟を図る。（研究の視点3：時間）
- 人権教育の視点から、ペアやグループでの活動を多く取り入れ、多様な考えに触れながら、学び合い活動が充実するようにする。（研究の視点3：時間）

4 本時の学習

(1) 目標

ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる良い方法について、理由を添えて伝えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	13分	1 課題をつかむ ①出欠の確認, 健康観察 ②準備運動, スキルウォーミングアップ ③前時の学習の振り返りと本時の学習の目標と流れを確認する。	○健康状態を把握する。 ○チームのリーダーが中心となって行う。 ○ゴール前での連携した学習をすることを確認する。
		【めあて】 ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる良い方法を伝え合おう。	
展開	30分	2 課題解決に向けて活動する	
		【学習課題】 ゴール方向で守備者がいない状況でシュートを打つためにはどのような動きをすればいいだろうか？	
		① 4対2 (3ゴール) の動きを確認する (18m×30m) 2面 (1) コート・ルールの説明 ・相手を抜き去るドリブル (1人でシュートまでいくような) は行わない。 ・3つのミニゴールにシュートをする。 (2) チーム練習 (5分交代) ・守備者が動かない状況でパスゲーム ・守備者が動く状況でゲーム (3) チーム別に話し合う。 ◇守備者を追い越してとパスをもらえばシュートが決まりやすい。 ② 4対2のチーム戦を行う ・3分間 (1分3セット) で攻守交代, 合計得点を競う。 ・1分ごとに交代で攻め4人, 守り2人を出す。	○活動する前に, ホワイトボードで動きの確認をする。 ○前時の復習を行い, イメージをもたせる。 ○パスが通りにくい場合は手でボールを操作したり, 攻守のスピードを抑えたりして行うことを確認する。 ○ボール操作を苦手とする生徒が多いので守備者の動きに制限を加えるなど, 段階的に学習を進めさせる。 ○守備者がいない状況でシュートを打つためにはどのような動きをすれば良いかについて, ホワイトボードを使って考えさせる。 ○チームで動きの確認後, ゲームを行う。 ○試合のないチームは, 得点を付けたりボールを取りに行ったりする。またゲームの観察をさせ, 自チームの動きに生かすよう伝える。
		【期待される学びの姿】 ゴール方向の守備者がいないところでパスをもらいシュートをするために, 仲間と一緒に動きの確認をし, よりよい方法について理由を添えて仲間に伝え, 高めあおうとする姿	
		【到達していない生徒への手立て】 ○チーム内での話し合いの時に, ホワイトボードなどを使い, 言葉だけでなく視覚的に伝える。	
終末	7分	3 本時の学習のまとめと振り返りを行う ①本時のまとめを振り返りシートに記入する。 ◇守備者から遠い位置にいるとうまくなりました。	○チーム練習やゲームでうまくいった動きをホワイトボードを使って発表させる。
		【まとめ】 ゴール方向で守備者がいないところでシュートをするためには, 守備者を追い越すなど, フリーでシュートを打てるゴール方向に近い位置に移動するとよい。	
		②整理運動・片づけ	○生徒の体調を確認し, 安全に留意させる。

【板書計画】

「球技 サッカー」

単元全体を通した学習課題：ボール操作と空間に走り込むなどの動きを仲間と高めながらサッカーを楽しもう。

めあて：ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる良い方法を伝え合おう。

学習の流れ

- 1 健康観察
- 2 準備運動
- 3 めあて・学習内容の確認
- 4 4対2チーム練習
- 5 簡易ゲーム
(4対2チーム戦)
- 6 学習のまとめ
- 7 片付け

動きのポイント

- ①守備者から離れる動き（フリーになる）
- ②シュートが打ちやすい位置に動く（ゴールに近い場所）
- ③同じ場所に居続けない（マークがつきにくい）

学び合いの視点

- ①ポイントを参考に課題を伝える。
- ②作戦用ホワイトボードの活用。

まとめ

ゴール方向で守備者がいないところでシュートをするためには、（守備者を追い越すなど）、フリーで（シュート）を打てる（ゴールに近い位置に移動するとよい）。

【場の設定】

スキルウォーミングアップ：4区画に分け、1分ずつのローテーションで行う。

- ①ドリブル ②ボールタッチ ③パス ④シュート

① ドリブル

コーンを2個並べ8
の字ドリブルを行う

②ボールタッチ

ボールを足下に置
き、縦タッチ・横タ
ッチを行う

③パス

二人組でのインサ
イドキックでのパ
スを行う

④シュート

ドリブルからのシュ
ートを行う

【ICTの活用計画】

- 状況に応じて、動き方や技能ポイントをイメージできる動画を提示する。
- 技能に関するポイントを掲示し、視覚的にとらえ技能習得に役立てる。
- よい動きを、作戦用ホワイトボードを活用しながら、共有することができる。

【見方・考え方を働かせて、終末や次時以降の学習に生かす計画】

終末に行う4対2において、シュートが打てる場所へ移動し、実際にシュートを打つことを通して、達成感や成就感を味わう。めあてに対する自他の課題をチーム内で解決するために、アイデアを出し合ったりアドバイスをし合ったりすることで、サッカーをはじめ球技全般に対して楽しいと思えるようにする。